

2008 年第 39 号
(2008.3.19)**20 代若者の旅行動向調査**

旅行に行かなくなったといわれる 20 代の若者の旅行実態は・・・

- 20 代若者旅行のキーワードは「お金」、「休み」、「同行者」
- 8 割が毎年国内旅行を 1 回以上経験。今年も 7 割が積極的
- 同行者で変わる旅行の楽しみ方
—— 夫婦や親しい友人とはゆったりと温泉へ、テーマパークへは仲良しグループで
- まとまったお金があれば①海外旅行、②貯金、③国内旅行に使いたい

1990 年代に旅行マーケットをリードしてきたのは 20 代の若者でした。近年この層は、『車』をはじめとした従来型の消費面での力の弱さが指摘されています。同様に旅行離れが進んでいるのではないかと懸念されています。2007 年の海外旅行者数は前年を下回りました。その原因の一つに、この層の減少もあげられています。

そこで、JTBは、首都圏、中京圏、京阪神在住の 20 代の若者 1,000 名(男女各 500 名)に観光目的の旅行の動向や意向に関するアンケートを実施しました。

調査の結果からは、日常生活にお金をかけざるを得ない実態がある中、約 8 割の若者が毎年のように国内旅行に出かけていることが分かりました。若者旅行のキーワードとして「お金」、「休み」、「同行者」が浮かび上がりました。20 代若者の旅行の特徴は以下のとおりです。

1. 20 代の若者に国内旅行は人気——約 8 割の若者が毎年 1 回は国内旅行を経験

国内旅行は伸び悩んでいるとよくいわれますが、20 代若者は国内旅行によく出かけています。最近 3 年間で平均 年 1 回以上観光目的の国内旅行に出かけている人は、女性は 80.0%、男性は 77.8%、全体で 78.9%となりました。また半数以上は、年 2 回以上国内旅行に出かけており、若者にとって国内旅行は人気のようです。

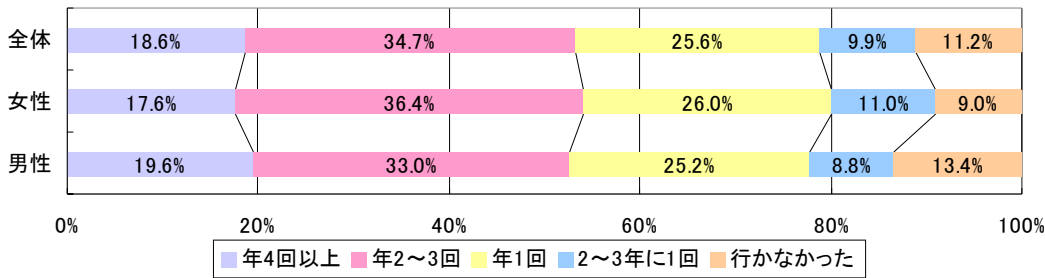
なお、過去 3 年間海外旅行で 2～3 回以上出かけた人は 28%となっています(2006 年の同地区の出国率は男性 18.7%、女性 32.4%、全体で 25.4%、全国 13.7%)。

20 代若者にとって意外なほど国内旅行が人気である理由は、

- ① 少ない金額、少ない日数で出かけることができる、
- ② 自然、歴史、都市、テーマパーク、異文化とビーチリゾート、温泉、グルメ・・・etc と観光素材が豊富である、
- ③ 安全、安心、言葉が通じる、

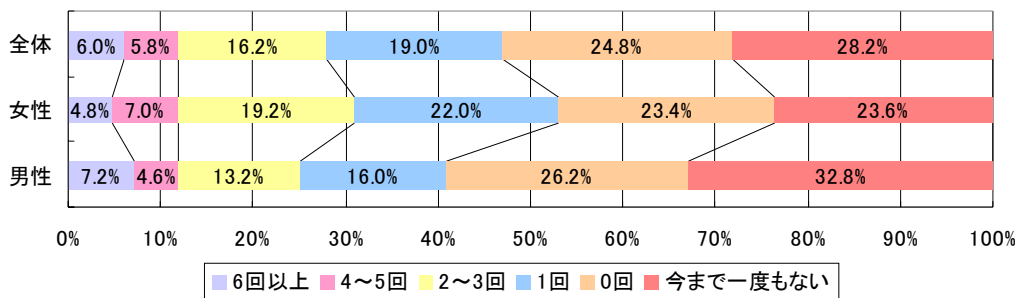
などの要素があると思われます。消費が停滞しているといわれる 20 代若者にとって、気楽に出かけることができる国内旅行は最大のレジャーといっても過言ではないようです。

図 1 最近3年間の国内観光旅行の回数



・平均 年1回以上旅行に出かけている人
 全体：78.9%
 女性：80.0%
 男性：77.8%

図 2 最近3年間の海外観光旅行の回数

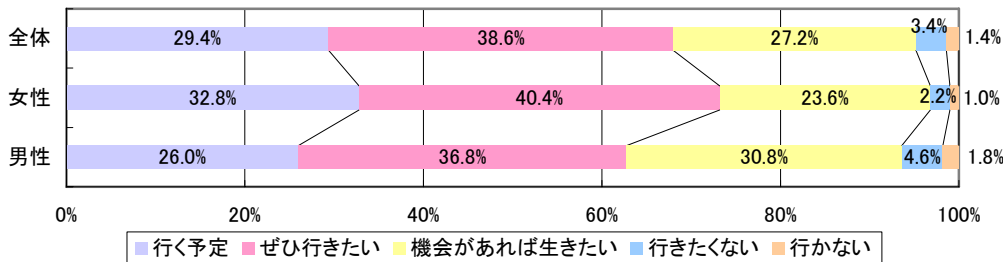


・3年間に2~3回以上旅行に出かけている人
 全体：28.0%
 女性：31.0%
 男性：25.0%

●今年、積極的に国内旅行に行きたい人は約70%

今年の予定を聞いてみたところ、「行く予定があり、具体的に計画している29.4%」と「具体的な計画はないが、ぜひ行きたい38.6%」の積極派は合計で68.0%となりました。女性の積極派は73.2%、男性の積極派は62.8%となっており、ここでも女性の国内旅行をしたいという意欲の高さが分かります。

図 3 今年の国内旅行の予定



・行く予定・ぜひ行きたい人の合計
 全体：68.0%
 女性：73.2%
 男性：62.8%

2. 気兼ねをしない「ふたり旅」が一番！！仲の良いグループ旅行はテーマパークで楽しんでおいしい食事を——同行者で変わる旅の楽しみ方

●誰と旅行に行きたいか

最も一緒に行きたい人は、「夫婦・恋人 45.1%」、「友人と2~3人で20.8%」、「家族と18%」、「ひとりで13.6%」の順になっています。家族構成別にみた場合、子供のいる既婚者は圧倒的に子供連れ家族旅行となりますが、それ以外では夫婦や気兼ねをしないですむ気の合った友人・同居者の希望が多くなっています。友人とのグループ旅行は女性に多く、一方、一人旅を好むのは男性に多くみられます。

参考：団塊世代の旅行動向(2007年3月実施)の同行者

- 男性 ①夫婦2人で(72.5%)、②自分一人で(10.7%)、③友人・知人と(7.4%)
- 女性 ①夫婦2人で(48.7%)、②友人・知人(22.5%)、③娘と2人で(7.6%)

女性は 20 代も友人との旅行を好む兆しが見られるものの、グループ旅行が比較的多い団塊世代と違い、夫婦や付き合っている友人など気兼ねをしない二人旅が一番人気のようです。

図 4-1 家族構成別に見た一番行きたい同行者(男性)

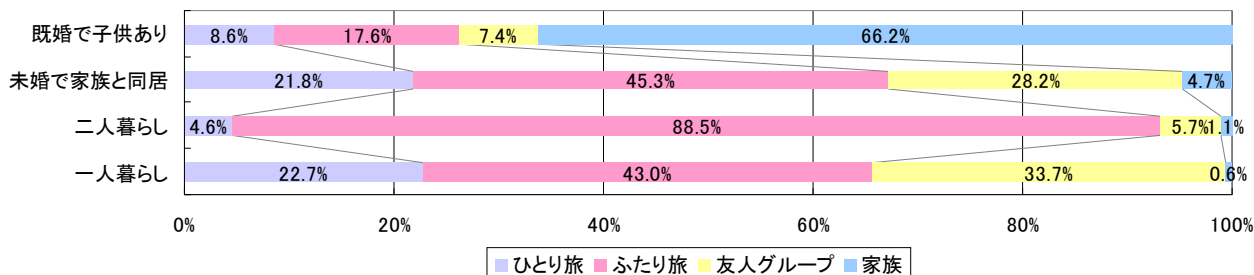
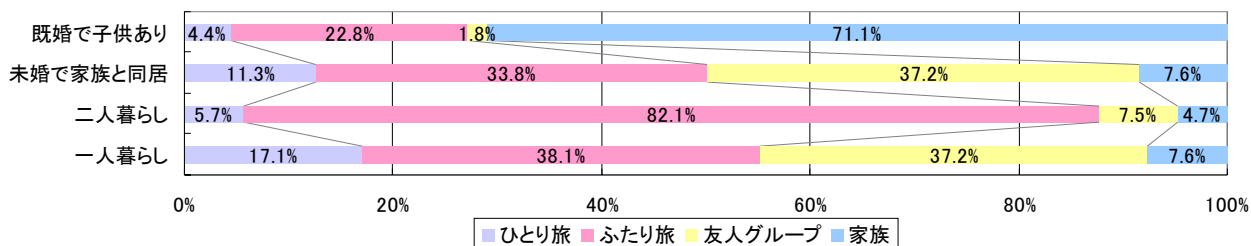


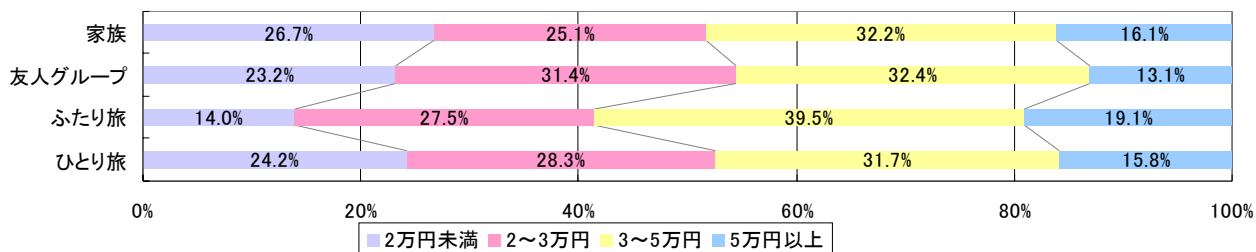
図 4-2 家族構成別に見た一番行きたい同行者(女性)



●一番お金を使うのも気兼ねをしないふたり旅

旅行にお金をかけるのも「ふたり旅」のようです。20 代は友人グループよりも夫婦や恋人に一番お金をかけるようです。家族旅行は総費用を支払うことになるので、やや節約気味のようです。ひとり旅も自分のために支払うのでやや高めとなっています。

図 5 同行者別旅行費用



参加形態別 一人当たりの平均旅行費用

旅行形態	平均旅行費用	旅行形態	平均旅行費用
ふたり旅	42,880 円	家族	37,935 円
ひとり旅	38,629 円	友人グループ	35,780 円

●おいしいものを食べ温泉でゆったり「ふたり旅」、テーマパークへは賑やかに「グループ旅行」、趣味を求めて「男の一人旅」

最も一緒に行きたい人と、どのような旅行を楽しみたいか聞いてみました。誰と出かける場合でも「自然や風景を楽しむ」、「地元の美味しいものを食べる」は上位に位置します。財団法人日本交通公社の旅行者動向調査でも、「行ってみたい旅行」のベスト 3 は長年にわたり「温泉」「自然」「グルメ」となっています。

20代若者層にとって「温泉でのんびり」は、ふたり旅と家族に圧倒的な支持を受けています。テーマパークはグループで賑やかに楽しむもの。スポーツも大人数のグループ旅行が楽しいようです。一方、ひとり旅で特徴的なのは「趣味を楽しむ」に比率が高いこと。「ドライブ・鉄道」の男性ひとり旅、「エステ」を楽しむ女性のひとり旅も他にはない比率の高さが見受けられます。

20代の若者は、同行者によって、旅行の楽しみ方をうまく使い分けているようです。

表 1 同行者別旅行の楽しみ方支持率(%)

	ひとり旅	ふたり旅	家族	友人グループ	
				2~3人	4人以上
自然や風景を楽しむ	60.2	45.7	46.3	33.1	18.0
史跡や名所を見て回る	49.8	33.2	33.7	35.4	22.9
美味しいものを食べる	43.8	69.5	71.9	69.4	65.1
温泉でのんびり	25.5	43.3	47.2	29.3	25.3
親睦を深める	0.8	10.5	12.5	21.3	32.5
テーマパークで楽しむ	2.0	22.5	23.3	29.0	39.8
ドライブや鉄道を楽しむ	12.0	9.1	7.2	9.1	16.9
スポーツなどのアクティビティを楽しむ	9.6	4.7	4.2	10.0	25.3
趣味を楽しむ	16.3	3.0	1.8	4.1	3.6

3. まとまったお金があれば！！ --- 一番したいのは海外旅行、貯金に回して日々の生活を守る堅実な生活も

国内旅行は、その金額や身近さから20代若者に人気ようですが、海外旅行に出かける20代の若者たちは1996年を境にその数が減少し、出国率も低下しています。正規雇用者より年収が低い非正規雇用者が1990年代後半から増加したと関係が深いと考えられます。今回の調査でも自由になるお金を何に使っているかと聞いたところ、衣料品20.8%、交際費17.8%と、日常生活の延長線上での消費が浮き彫りになりました。ひと月に自由に使えるお小遣いが3万円未満の女性は47.4%、男性は37.4%となっています。

しかし、旅行に対する意欲が減退しているわけではないようです。まとまったお金(30万円程度)があれば何に最も使いたいかと聞いたところ①海外旅行20.4%、②貯金17.3%、③国内旅行12.5%の順となりました。海外旅行への意欲そのものは旺盛のようです。

表 2 20代の出国者数と出国率 (出典:法務省「出入国管理統計、総務省統計局「10月1日現在推計統計」)

		1996年	2000年	2006年
男性	出国者数	173万人	153万人	115万人
	出国率	17.8%	16.2%	14.7%
女性	出国者数	290万人	265万人	183万人
	出国率	30.9%	29.3%	24.3%

4. 旅行の阻害要因は①.お金がない、②休みが取れない、③一緒に行きたい人とのスケジュールが合わない

旅行をためらう理由を国内旅行、海外旅行それぞれに3つあげてもらいました。共通している項目は、①お金がない等金銭的理由、②休みが取れない、③一緒に旅行したい人とのスケジュールが合わないの3つです。有給休暇が取りにくい、休暇を取ると年収が減るなど旅行に出かけるために休みが取りにくい状況が増えてきてい

るようです。また、この層は状況に応じて同行者を選ぶ傾向が強く、その同行者とのスケジュールが合わなくて旅行に出かけないということがあるようです。

海外旅行の阻害要因としてはこのほかに、日本人にありがちな「言葉が通じない」のほか「旅先でのトラブルが心配」、「治安や伝染病が不安」、「食べ物や衛生面が不安」があげられ、国内旅行では現代の若者気質を表すような「家でゆっくりするほうが好き」、「旅行よりもほかに楽しいことがある」が挙げられています。

今や日常生活品となっている携帯電話やパソコンの費用をはじめ消費アイテムが増えており、収入が伸びない中で、相対的に「海外旅行」のプライオリティが下がってきていることが考えられます。国の政策として掲げた2010年海外旅行者数2000万人達成に向けては、「海外パッケージツアー」の安全性や利便性、「旅行」の楽しさ、有益さをもっと訴えていく必要があります。

表3 旅行をためらう理由(3項目選択)

(国内旅行)		(海外旅行)	
休みが取れない	39.4%	休みが取れない	39.2%
旅行はしたいがお金がない	34.8%	旅行はしたいがお金がない	35.3%
旅行よりもほかに使いたいものがある	38.2%	旅行よりもほかに使いたいものがある	26.4%
無駄な支出は避けたい	17.0%	無駄な支出は避けたい	10.3%
同行者とのスケジュールが合わない	19.5%	同行者とのスケジュールが合わない	14.9%
家でゆっくりとするほうがいい	12.9%	言葉が通じないのが不安	25.8%
ほかに楽しいことがある	10.8%	旅先でのトラブルが不安	18.7%
		治安や伝染病が不安	17.3%
		食べ物や衛生面が不安	13.2%

<調査方法>

調査実施期間： 2008年3月1日(土)～3月3日(月)

調査対象： 首都圏（東京、神奈川、埼玉、千葉）、愛知県、京阪神（京都、大阪、兵庫）在住の20歳代の男女

サンプル数： 1,000名（男女それぞれ500名ずつ）

調査方法： オンラインWEB調査

調査内容： 消費および旅行に関する調査